

| | |
|--------------------|---|
| 科目名称 | 老年期障害の作業療法基礎 |
| 授業コード | AE268 |
| 英語名称 | Occupational Therapy Theory:Geriatrics |
| 学期 | 2024年度後期 |
| 単位 | 1.0 |
| 担当教員 | 小橋 一雄 |
| 記入不要 ナンバリングコード | |
| 授業の概要 | <p>作業療法は、生き生きと社会で生活するための作業を獲得するリハビリテーションである。本科目は、作業療法基礎評価学、生活活動評価学などを基盤として高齢者の身体特性や生活特性について学び、老年期の作業療法応用につなげる。</p> <p>ここでは、老年期による心身機能・日常生活・社会生活の変化について理解し、ライフステージで生き生きと社会で生活するための基本的要素について理解する。</p> <p>また、介護保険制度をはじめとする高齢者支援に必要な社会制度を学習する。尚、本科目は上記内容について、地域及び施設における高齢者領域において実務経験のある教員による実践的科目である</p> |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | <p>担当教員は、維持期及び終末期に見られる、虚弱高齢者や認知症の高齢者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、高齢者の身体及び精神、生活の特徴を基に、高齢者医療及び介護領域において培われた作業療法士としての実務経験を活かして講義する。</p> |
| 到達目標 | <p>本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の4つを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の身体機能の特性について説明できる 2) 高齢者の精神・心理的特性について説明できる 3) 獲得していく世代と比較して、喪失する体験の多い高齢者の生活特徴について説明できる 4) 作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる <p>これらを通して、老年期に生活障害を抱えるクライアントに対する評価と治療方針を検討し、対応することができるようになる。また、高齢者に対する尊厳について学ぶことで医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる</p> |
| 計画・内容 | <p>本科目は、担当教員が高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を活かして講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者社会と高齢社会が抱える問題 担当：小橋：作業療法士 2) 高齢者のライフスタイル 担当：小橋：作業療法士 3) 高齢者の精神・心理機能の特性（発達課題と喪失体験） 身体機能の特性（呼吸器 循環器 消化器） 担当：小橋：作業療法士 4) 高齢者の身体機能の特性（運動機能 生理機能 認知機能） 担当：小橋：作業療法士 5) 高齢者体験 担当：小橋：作業療法士 6) 高齢者の生活上の課題 担当：小橋：作業療法士 7) 高齢者の地域で暮らすための課題 担当：小橋：作業療法士 |

| | |
|------------------------------------|--|
| 計画・内容 | 8) まとめ 担当：小橋：作業療法士 |
| 授業の進め方 | 教科書、配布資料を使用し講義を進める。個人ワーク、ペアワーク、グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。 |
| 能動的な学びの実施 | 課題を通して、前回の課題の確認、次回の課題の予習を説明し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。 |
| 授業時間外の学修 | 授業時間外学習 予習および復習は合計30時間程度おこなってください 予習は教科書から対応する部分について、あらかじめ熟読してください 復習は、教科書と授業内で配布した資料を学習してください |
| 教科書・参考書 | 教科書：村田和香 編集；作業治療学4 老年期 協同医書出版 2940円：2008 参考書：長崎重信 監修；老年期作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)メジカルビュー社 4400円：2017 |
| 成績評価方法と基準 | ・授業で提示する課題の期末試験の成績100%により評価する。 |
| 課題等に対するフィードバック | 課題に対してのフィードバックは、Campus Square内のレポート機能を通して、フィードバックする。 |
| オフィスアワー | CampusSquareを参照 |
| 留意事項 | 事前に、人体の構造と機能 の講義を下に、生理学、解剖学について再度復習をして臨んでください |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | 非対面学習となった場合でもZOOMなどのオンラインシステムを用いて行う。 教科書、配布資料を使用し講義を進め、ブレイクアウトルームなどを用いて、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。 ・期末試験は、googleフォームを用いて行う。 ・課題などのフィードバックは、Zoomによる質問会及び個別にレポート機能を用いて行う。 |